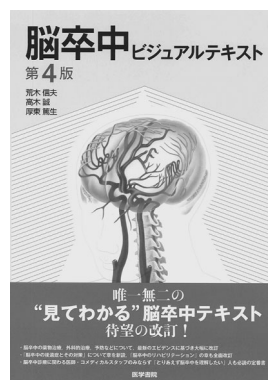


荒木 信夫, 高木 誠, 厚東 篤生●著

脳卒中ビジュアルテキスト 第4版

評者

片山 泰朗 (総合東京病院脳卒中センター長/日医大名誉教授)



●脳卒中全般を理解するために最適なテキスト

脳卒中はわが国では死因別死亡率において第4位の座にあり、年間12万人を超す死亡がみられている。超高齢社会を迎え年間約30万人が新たに脳卒中となり、脳卒中患者総数は300万人を超える数に達していると推定され、今後さらに増加することが予想される。このような状況下で脳卒中の予防、脳卒中急性期の治療および脳卒中後遺症の治療の重要性はますます増大するものと思われる。

そんな中、『脳卒中ビジュアルテキスト』が7年ぶりに改訂され発刊された。この間、脳卒中治療は目覚ましい進歩がみられ、大きく変貌している。わが国では2005年10月に血栓溶解薬、組織プラスミノゲンアクチベータ (tissue plasminogen activator: t-PA) が発症3時間以内の脳梗塞に適用となったが、これが契機となって全国の脳卒中救急診療体制が整備され、また主要機関病院では脳卒中を集中的かつ専門的に診療するストロークケアユニット (Stroke Care Unit: SCU) も設置されるようになった。

さらに、近年、治療薬ではワルファリンに代わりNOACと呼ばれる新規抗凝固薬であるトロンビン直接阻害薬やXa阻害薬が市販されるようになり、増加している心原性脳塞栓症の予防に期待されている。

他方、治療法では血管内治療においてSolitaire™やTrepo®といった新たな血栓除去デバイスが出現し、血行再建によるさらなる治療成績の向上が期待されている。

本書は表題にあるようにビジュアルテキストであり、改訂版では見出し・図・表がカラーで施されより見やすくなり解説にはMRI・MRA、CT画像などが随所に示され、疾患の症状・病因・診断を理解するために工夫が凝らされている。

また、本書の構成は「1. 脳の解剖」「2. 脳卒中の診察の進め方」「3. 脳卒中の主要症候」「4. 脳ヘルニア」「5. 脳卒中の主要疾患」「6. 脳卒中の治療」「7. 脳卒中の後遺症と対策」「8. 脳卒中の予防」「9. 脳卒中のリハビリテーション」からなり、各項目において内容の充実が図られ脳卒中診断・治療に必要な全てが網羅されている。

本書では始めに脳の解剖、診察の進め方、主要症候が解説され、脳卒中診療の入門者にもわかりやすく書かれている。また、脳卒中の主要疾患の項では原因、症状に加えて解剖組織、MRI・MRA、脳血管撮影さらには3D-CTA、超音波所見も示され、症例検討としても勉強できるように記載されている。また、脳卒中治療では脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の治療、さらには血管内治療についても解説され最新の治療が示されている。さらに脳卒中の予防の項では新しいガイドラインに基づいた治療指針が示され、また最新の大規模臨床試験のエビデンスが紹介されている。

脳卒中のすべてが網羅され、ビジュアルに脳卒中全般を理解することができ本書を、医学生、研修医、脳卒中治療に携わる医師およびコメディカルスタッフの方々に最適なテキストとして推薦する。

A4 頁280 2015年 医学書院刊
定価: 本体12,000円+税
[ISBN978-4-260-02082-4]

お知らせ

本誌投稿欄に「Technical Note」がございます。手術手技、機器、周術期管理など手術にかかわる独自の工夫をご報告いただく欄です。ご投稿に際しては、本文(文献含む)3,200字以内、表・図・写真5点以内でおまとめください。

「脳神経外科」編集室